3．「幼児期の終わりまでに育ってほしい姿」と先生の関わり、環境の構成や小学校へのつながり

「幼児期の終わりまでに育ってほしい姿」は、幼児一人一人の発達していく姿を捉え、生活や学びの質を高めていくよう、先生方の関わりや環境の構成を改善・充実していくための視点として活用。

また、幼児期に育まれた力が小学校教育にどのようにつながっていくのか、関係者がイメージを共有できる手掛かりとしても活用（「幼児期の終わりまでに育ってほしい姿」は、各教科等のみでなく、小学校以降の学習や生活の基盤につながる姿であることにも留意）。

※下記の一覧表は、幼稚園教育要領等の解説を参考に整理したもの。

幼児期の終わりまでに育ってほしい姿		幼児教育施設			小学校へのつながり
		～5歳児前半の姿	5歳児後半の姿	先生の関わり、環境の構成	
健康な心と体	園生活の中で、充実感をもって自分のやりたいことに向かって心と体を十分に働かせ、見通しをもって行動し、自ら健康で安全な生活をつくり出すようになる。	安定感をもって環境に関わり、自己を十分に発揮して遊びや生活を楽しむ中で、体を動かす気持ちよさを感じたり、生活に必要な習慣や態度を身に付けたりしていく。	充実感をもって自分のやりたいことに向かって、繰り返し挑戦したり諸感覚を働かせたりして、体を思い切り使って活動したりするなど、心と体を十分に働かせる。そして、遊びの目的に沿って、時間を上手く使い、適切な場所を選んで、遊びを進めたり、衣服の着脱、食事、排泄などをいつどのように行うのかがわかったりするようになるなど、見通しをもって行動し自ら健康で安全な生活を創り出すようになる。	・幼児が自ら体を動かし多様な動きを楽しめるような場や遊具を用意する。 ・園生活が幼児の意識の中でつながり、大まかな予測が立てられるように工夫する（例えば、十分に遊んだ満足感が次の活動への期待感につながり、片付けの必要性を無理なく受け止められる）。 ・健康で安全な生活のために必要なことを、学級で話題にして一緒に考えてやってみたり、自分たちでできたことを十分に認めたりするなど、自分たちで生活をつくりだしている実感をもてるようにする。 ・交通安全を含む安全に関する指導について、日常的な指導を積み重ねることによって、自ら行動できるようにしていく。	・時間割を含めた生活の流れがわかるようになると、次の活動を考えて準備する。 ・安全に気を付けて登下校。 ・小学校での運動遊びや、休み時間に他の小学生と楽しく過ごす。
自立心	身近な環境に主体的に関わり様々な活動を楽しむ中で、しなければならないことを自覚し、自分の力で行うために考えたり、工夫したりしながら、諦めずにやり遂げることで達成感を味わい、自信をもって行動するようになる。	身近な環境に主体的に関わり様々な活動を楽しむ中で、信頼する先生に支えられながら、物事を最後まで行う体験を重ね、自分の力でやろうとする気持ちをもったり、やり遂げた満足感を味わったりするようになる。	飼育動物の当番活動から自分の役割の大切さを感じるなど、園生活を通して、自分のしなければならないことを自覚し、自ら行動するようになる。また、遊びや生活の中で様々なことに挑戦し、失敗も繰り返す中で、難しいことでも自分の力でやってみようとして、考えたり、工夫したりしながら、諦めずにやり遂げる体験を通して達成感を味わう。そこで得た自信を基に、もっと難しい課題を自ら設定し、挑戦していく。そのような姿を先生や友達から認められることで、意欲が高まり、自信を確かなものにしていく。	・主体的に園生活が送れるように、その日に必要なことを分かりやすいように視覚的に提示する。 ・幼児が自ら考えて行動できるように、ゆとりをもった園生活に配慮する。 ・やり遂げたことを共に喜ぶ。 ・幼児が失敗を繰り返したりしている時には、幼児なりに取組んでいる姿を認めたり、時には一緒に行動しながら励ましたりする。 ・幼児のよさが他の幼児に伝わるようにしたり、学級全体の中で認め合える機会を作ったりする。	・自分でできることは自分でしようと積極的に取り組む。 ・生活や学習での課題を自分のこととして受け止めて意欲的に取り組む。 ・自分なりに考えて意見を言ったり、分からないことや難しいことは、先生や友達に聞きながら粘り強く取り組む。

３．「幼児期の終わりまでに育ってほしい姿」と先生の関わり、環境の構成や小学校へのつながり

幼児期の終わりまでに育ってほしい姿		幼児教育施設			小学校へのつながり
		～5歳児前半の姿	5歳児後半の姿	先生の関わり、環境の構成	
協同性	友達と関わる中で、互いの思いや考えなどを共有し、共通の目的の実現に向けて、考えたり、工夫したり、協力したりし、充実感をもってやり遂げるようになる。	友達と関わる中で、様々な出来事を通して、嬉しい、悔しい、悲しい、楽しいなどの多様な感情体験を味わい、友達との関わりを深めていく。その中で互いの思いや考えなどを共有し、次第に共通の目的をもつようになる。	イメージや目的を共有し、それを実現しようと、協力したり折り合いを付けたりすることを繰り返す中で、仲の良い友達だけではなくいろいろな友達と一緒に、さらには、学級全体で協同して遊ぶことができるようになっていく。そして、考えたことを相手に分かるように伝え合いながら話し合い、一人では得られないものに集中していく気分を感じたり、力を合わせて問題を解決したりして、自分も他の幼児も生き生きするような関係性を築いていく。そうして、共通の目的の実現に向けて、考えたり、工夫したり、協力したりし、充実感をもってやり遂げるようになる。	・幼児一人一人の人との関わりの経験の違いを把握し、幼児によっては、自分に自信がもてなかったり、他者に対して不安になったり、人への関心が薄かったりすることもあることを踏まえて、適切な援助を行う。 ・集団の中のコミュニケーションを通じて、共通の目的が生まれてくる過程や、幼児が試行錯誤しながらも一緒に実現に向かおうとする過程、いざこざなどの葛藤体験を乗り越えていく過程を大切に受け止め、一人一人の幼児が十分に自己発揮しながら、他の幼児と多様な関りがもてるように援助する。 ・他の幼児を意識していてもうまくいかない場面では、先生の姿勢や言葉かけから他の幼児のよさや協同して活動する大切さに、幼児自身が気付くようにする。	・学級での集団生活の中で、目的に向かって自分の力を発揮しながら友達と協力し、様々な意見を交わす中で新しい考えを生み出しながら工夫して取り組んだりするなど、先生や友達と協力して生活したり学び合ったりする。

3．「幼児期の終わりまでに育ってほしい姿」と先生の関わり、環境の構成や小学校へのつながり

幼児期の終わりまでに育ってほしい姿		幼児教育施設			小学校へのつながり
		～5歳児前半の姿	5歳児後半の姿	先生の関わり、環境の構成	
道徳性・規範意識の芽生え	友達と様々な体験を重ねる中で、してよいことや悪いことが分かり、自分の行動を振り返ったり、友達の気持ちに共感したりし、相手の立場に立って行動するようになる。また、きまりを守る必要性が分かり、自分の気持ちを調整し、友達と折り合いを付けながら、きまりをつくったり、守ったりするようになる。	他の幼児と様々な体験を重ねる中で、してよいことや悪いことがあることを分かり、考えながら行動するようになっていく。	いざこざなどの場面において、どうしたら楽しく遊べるか解決策を話し合ったり提案したりするような体験を重ねていく。そうした中で、自分の行動が正しいと思っていても、話し合いの中で友達の納得できない思いを受け止めたり、友達に気持ちを受け止めてもらったことで、自分の行動を振り返って相手に謝ったり、気持ちを切り替えたりして、相手の立場に立って行動するようになる。 また、人間関係が深まる中で、きまりを守る必要性が分かるようになっていく。特に、友達と遊ぶということは、自他に共有された何らかのルールに従うことであり、ルールを守ることで遊びが楽しめることを知り、自分の気持ちを調整し、友達と折り合いを付けていくようになる。さらに、より面白くなるようにルールをつくり替えたり、年下の幼児が加われば、仲間として一緒に楽しめるように特例を作ったりするようになる。	・過去の幼児の経験を念頭に置き、相手の気持ちを分かろうとしたり、遊びや生活をよりよくしていこうとしたりする姿を丁寧に捉え、認め、励まし、その状況などを他の幼児にも伝えていく。 ・幼児が自分の言動を振り返り納得して折り合いを付けられるように、問い掛けたり共に考えたりし、幼児が自分たちで思いを伝え合おうとする姿を十分に認め、支えていく。 ・いざこざや言葉のやり取りが激しかったり、長い間続いたりしている場合には仲立ちをする。 ・幼児がなかなか気持ちを立て直すことができそうにない場合には、先生が幼児の心のよりどころとなり、適切な援助をする。 ・日々の遊びや生活の中できまりを守らなかったために起こった問題に気付かせ、きまりの必要性を幼児なりに理解できるようにする。 ・善悪を直接的に示したり、また、集団生活のきまりに従うように促したりするとともに、他者とのやり取りの中で幼児が自他の行動の意味を理解し、何がよくて何が悪かったのか考えることを促す。	・初めて出会う人の中で、幼児期の経験を土台にして、相手の気持ちを考えたり、自分の振る舞いを振り返ったりなどしながら、気持ちや行動を自律的に調整し、学校生活を楽しくしていこうとする。

3．「幼児期の終わりまでに育ってほしい姿」と先生の関わり、環境の構成や小学校へのつながり

幼児期の終わりまでに育ってほしい姿		幼児教育施設			小学校へのつながり
		～5歳児前半の姿	5歳児後半の姿	先生の関わり、環境の構成	
社会生活との関わり	家族を大切にしようとする気持ちをもつとともに、地域の身近な人と触れ合う中で、人との様々な関わり方に気付き、相手の気持ちを考えて関わり、自分が役に立つ喜びを感じ、地域に親しみをもつようになる。また、園内外の様々な環境に関わる中で、遊びや生活に必要な情報を取り入れ、情報に基づき判断したり、情報を伝え合ったり、活用したりするなど、情報を役立てながら活動するようになるとともに、公共の施設を大切に利用するなどして、社会とのつながりなどを意識するようになる。	初めての集団生活の場である園生活を通して、先生との信頼関係を基盤としながら園内の幼児や教職員、他の幼児の保護者などいろいろな人と親しみをもって関わるようになる。その中で、家族を大切にしようとする気持ちをもつとともに、小学生や中学生、高齢者や働く人々など地域の身近な人と触れ合う体験を重ねていく。	幼児は、保護者、先生、友達、小学生や地域の人々とのこれまでの関わりを通して、家族の愛情に気付き、家族を大切にしようとするとともに、相手に応じた言葉や振る舞いなど、人との様々な関わり方に気付き、相手の気持ちを考えて関わるようになっていく。さらに、手伝い等を通して、相手から感謝され、自分が有用な人間であることを自覚し、役に立つ喜びを感じるようになっていく。 また、好奇心や探究心が一層高まり、関心のあることについて、より詳しく知りたいと思ったり、より本物らしくしたいと考えて遊びの中で工夫したりする中で、身近にあるものから必要な情報を取り入れるようになる。そうした体験を通して、幼児は、自分だけでは気付かなかったことを知ることで遊びがより楽しくなることや、情報を伝え合うことのよさを実感していく。また、地域の公共の施設などを訪れることで、その場所や状況に応じた行動をとりながら大切に利用することなどを通して、社会とのつながりなどを意識するようにもなっていく。	・機会を捉えて親や祖父母などの家族のことを話題にしたり、その気持ちを考えたりする機会を設け、幼児が、家族の愛情に気付くようにする。 ・地域の人々や障害のある幼児などとの交流の機会を積極的に取り入れ、地域の人たちとの関わる中、人間は一人だけで孤立して生きているのではなく、周囲の人たちと関わり合い、支え合って生きていることを、幼児が実感できるようにする。 ・絵本や図鑑や写真、新聞やインターネットで検索した情報、地域の掲示板から得られた情報などを、遊びに取り入れやすいように見やすく保育室に設定するなどの工夫をし、幼児の情報との出会いをつくっていく。 ・家族から聞いたり自分で見付けたりするなど幼児なりに調べたことを加えたり、遊びの経過やそこで発見したことなどを、幼児が関わりながら掲示する機会をもつ。 ・先生がモデルとなり、情報を集める方法や集めた情報の活用の仕方、そのことを周囲に伝える方法などがあることに気付かせる。 ・遊具や用具について、自分も友達も使いたいことで起こる衝突やいざこざなどの体験を通して、個人の物と皆の物とがあることに気付かせていく。 ・図書館や高齢者福祉施設などの様々な公共の施設の利用を通して、このような施設が皆のものであり、大切に利用しなければならないことを指導する。	・相手の状況や気持ちを考えながらいろいろな人と関わることを楽しむ。 ・関心のあることについての情報に気付いて積極的に取り入れたりする。 ・地域への親しみや地域の中での学びの場を広げていく。

３．「幼児期の終わりまでに育ってほしい姿」と先生の関わり、環境の構成や小学校へのつながり

幼児期の終わりまでに育ってほしい姿		幼児教育施設			小学校へのつながり
		～5歳児前半の姿	5歳児後半の姿	先生の関わり、環境の構成	
思考力の芽生え	身近な事象に積極的に関わる中で、物の性質や仕組みなどを感じ取ったり、気付いたりし、考えたり、予想したり、工夫したりするなど、多様な関わりを楽しむようになる。また、友達の様々な考えに触れる中で、自分と異なる考えがあることに気付き、自ら判断したり、考え直したりするなど、新しい考えを生み出す喜びを味わいながら、自分の考えをよりよいものにするようになる。	身近な事象に積極的に関わる中で、物の性質や仕組みなどを感じ取ったり、気付いたりするようになる。	幼児は、物に興味をもって繰り返し関わる中で、次第にその性質や仕組みに気付き、幼児なりに物の仕組みなどを生かして、考えたり予想したり、工夫したりすることで遊びが発展していく。すると、物との関わりが深まり、新たに物の性質や仕組みに気付くといったように、遊びを通して物の理解を深めていく。 また、遊びの深まりや仲間の存在は、幼児が物と多様な関わりをすることを促すが、幼児一人一人によって、興味や関心、発想の仕方、考え方などが異なっている。幼児は、自分とは違った考え方をする友達が試行錯誤している姿を見たり、その考えを聞いたり、友達と一緒に試したり工夫したりする中で、友達の考えに刺激を受け、自分だけでは発想しなかったことに気付き、自ら判断したり、考え直したりするなど、新しい考えを生み出す喜びを味わい、自分の考えをよりよいものにしようという気持ちが育っていく。	・環境の中にあるそれぞれの物の特性を生かしつつ、その環境から幼児の好奇心や探究心を引き出すことができるような状況をつくる。 ・それぞれの幼児の考えを受け止め、そのことを言葉にして幼児たちに伝えながら、更なる考えを引き出していく。 ・幼児が他の幼児との意見や考えの違いに気付き、物事をいろいろな面から考えられるようにすることやそのよさを感じられるようにする。	・新しい環境や教科等の学習に興味や関心をもって主体的に関わる。 ・探究心をもって考えたり試したりする経験は、主体的に問題を解決しようとする。